

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：12月ユーロ圏消費者物価（速報）

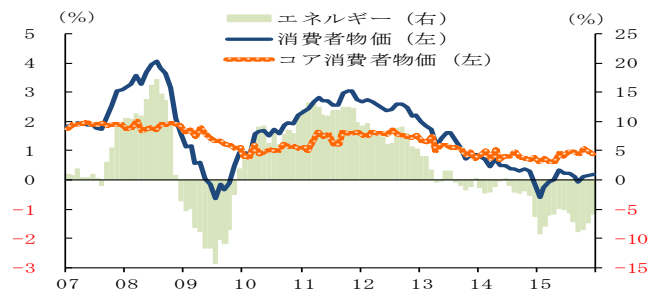
発表日：2016年1月6日（水）

～物価浮揚への道のりは険しい～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

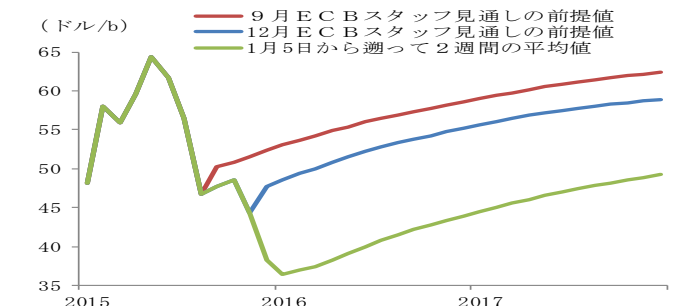
- 5日に発表された昨年12月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比+0.2%と前月から不変（四捨五入前では11月：同+0.15%→12月：同+0.20%に小幅加速）で、同+0.3～0.4%への加速を見込んでいた市場予想を下振れした。エネルギー価格（同▲7.3%→同▲5.9%）の下落率が前月から縮小したものの、暖冬や輸送費低下による生鮮食品価格の下振れを背景に食料/アルコール/たばこ価格（同+1.5%→同+1.2%）の上昇率が鈍化したことが響いた。コア物価（同+0.9%→同+0.9%）は前月と同じ上昇率にとどまったが、四捨五入前では11月：同+0.93%→12月：同+0.86%に上昇率が鈍化。企業の価格支配力の弱さに加え、暖冬による季節物衣料品の値崩れなどが抑制要因として働いた模様。
- 発表済みの国別の12月の消費者物価（ベルギーを除いてEU統一基準）は、スペイン（同▲0.4%→同▲0.1%）が前月対比で下落率が縮小した一方、ドイツ（同+0.3%→同+0.2%）、イタリア（同+0.2%→同+0.1%）、ベルギー（同+1.52%→同+1.50%）が揃って前月対比で上昇率が鈍化した。
- エネルギー価格の下落率は“前年の裏”に助けられて一段と縮小したが、原油先物価格は昨年12月のECBスタッフ見通しの想定対比で20%以上も下落している。今年前半を通じてエネルギー価格の前年比下落率はほとんど縮小しない可能性がある。低成長下で需給ギャップの縮小が限定的なことや、原油一段安の二次的な波及が予想されることから、コア物価の低迷も当面続く可能性が高い。最近のECB高官発言からは追加緩和への前傾姿勢は確認されないが、物価見通しの更なる下方修正は必要な情勢で、向こう数ヶ月の間に徐々にECBの追加緩和期待が再燃する展開を予想する。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く  
 出所：Eurostat

■北海ブレント原油先物価格



出所：ECB, Thomson Reuters

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2015				2015											
	1Q	2Q	3Q	4Q	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
消費者物価（前期比）	-0.3	0.5	0.0	0.2	0.3	0.0	-0.0	-0.1	-0.1	0.1	-0.0	-				
（前年比）	-0.3	0.2	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	-0.1	-0.1	0.1	0.2	0.2				
コア消費者物価（前年比）	0.7	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8	1.0	0.9	0.9	1.1	0.9	0.9				
食料/アルコール/たばこ（前年比）	0.3	1.1	1.2	1.4	1.2	1.1	0.9	1.3	1.4	1.6	1.5	1.2				
食料（前年比）	-0.1	0.8	0.9	-	0.9	0.8	0.5	1.0	1.2	1.4	1.3	-				
アルコール（前年比）	0.8	0.8	0.7	-	0.7	1.0	0.8	0.8	0.6	0.5	0.9	-				
たばこ（前年比）	2.6	3.1	3.4	-	3.1	3.2	3.5	3.5	3.3	3.1	2.9	-				
エネルギー（前年比）	-7.7	-5.3	-7.2	-7.3	-4.8	-5.1	-5.6	-7.2	-8.9	-8.5	-7.3	-5.9				

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。